

イチゴ栽培に初挑戦，収穫もたけなわ ～赤い果実は情熱の結晶～

コロナ禍にあっても，前向きに挑戦し続ける人がいる。

気仙沼市本吉町の小室千恵子さん（51）は，震災後に就農し，主に，トマトの施設栽培をしていたが，昨年からは，イチゴの施設栽培を始めた。

「空き施設があるから，やってみないか」というJAからの薦めや，家族の後押しもあり，小室さんは，思い切って新たな扉を開いた。

しかし，同じ施設栽培といっても，トマトとイチゴでは全く勝手が違い，苦労の連続。「周辺のイチゴ農家の方々の支援があったからこそ，一年目でここまでやれた」と感謝の笑みを浮かべる。



小室さんの挑戦はこれが初めてではない。

自身が会社勤めをしながら子育てをした経験から「子育てしながらでも働きやすい環境づくり」を目指した。お母さんたちがすきま時間で働ける体制を作り，作業補助として雇用している。

また，「体験」を重視し，コロナ禍以前は，小・中学生の体験活動や障がい者の受け入れなども積極的に行ってきた。

イチゴの収穫が落ち着くと，今度はトマトの季節が始まる。小室さんの挑戦もまた，途切れることなく，新しい季節を迎える。

【記事提供：気仙沼市農業委員会】